

平成30年度 富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成31年2月6日(水)13:30～15:00
- 2 場 所 富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター 学習室
- 3 出席者 運営委員 (※50音順)
- 青井 洋一 (公募委員、観光ボランティアガイド、カレッジメイト)
- 岩本 健嗣 (富山県立大学工学部電子・情報工学科准教授)
- 上野 隆子 (いずみの会代表)
- 沖 和美 (射水市婦人会会長、射水市母子寡婦福祉連合会会長)
- 奥 敬一 (富山大学芸術文化学部准教授)
- 晒谷 和子 (高岡市立博物館元館長)
- 柴田 善子 (高岡市男女平等推進センター所長)
- 姫野 拓雄 (高岡地区生涯学習団体協議会会長)
- 深井 康子 (富山短期大学食物栄養学科教授)
- 事務局
- | | |
|----------|----|
| 県民カレッジ本部 | 1名 |
| 志貴野高等学校 | 1名 |
| 県民カレッジ | 4名 |

4 会議次第

[1] 開 会 (県民カレッジ高岡地区センター 小路副所長)

[2] あいさつ (県民カレッジ高岡地区センター 尾崎所長)

本会議への出席に対し運営委員に感謝する。

当地区センターの主催講座を受講されている方々はとても熱心で、その姿は意欲的で若々しい。共学講座では社会人と高校生と一緒に授業を受けることでよい相乗効果が生まれている。秋にはこの建物の生涯学習機関が連携してウイング・ウイング祭を行っている。今年度は外部機関とも連携したため、これまでとは違う人の流れができた。次年度はこれをさらに発展させ、さらなる賑わいを創出したいと考えている。

委員の皆様方には、当県民カレッジ高岡地区センターの運営について忌憚のないご意見をいただき、協議を行っていただきたい。

[3] 自己紹介

[4] 協議 (議長：深井運営会議会長)

(1) 平成30年度事業報告

<学習機会の提供>

①地域課題学び活かし講座について (前期1講座、後期2講座、計3講座実施)

人口減少、超高齢化、環境、防災、子育て、観光振興、国際交流、文化継承など様々な課題について、強い関心を持っている方や、実際に活動されている方が共に学び、考える機会を設けることで、地域の活性化に向けた行動につなげる講座

②ふるさと探究講座 (専門) について (前期2講座、後期2講座、計4講座実施)

ふるさとの自然や風土・歴史 (人物) ・文化・伝統・産業などをテーマにした専門家の講義を通して学びを深める専門講座

- ③ふるさと探究講座（基礎）について（前期3講座、後期1講座、計4講座実施）
地域の特色を活かしたテーマについて現地研修や解説を通して体験的に学びを深める基礎講座
- ④共学講座について（通年23講座 前期1講座 後期2講座 計26講座実施）
志貴野高校の授業を社会人が生徒と共に受ける講座
・高校生と社会人が共に学ぶことについて、社会人の91%、高校生の97%が「大変よかった」、「よかった」と回答している。
- ⑤教養講座について（1講座、全8回実施）
生涯学習団体協議会に委託して実施している講座
- ⑥自遊塾について（9講座実施）
県民自らが講座内容を企画し、県民教授として開講している自主講座
- ⑦わくわくシアターについて（年8回実施）
富山県映像センターが所蔵する映像作品を上映

<学習情報の提供>

- ①とやま学遊ネットについて
各種講座や講師、学習団体などの生涯学習関連の情報提供
地区センターホームページでは講座やイベントの最新情報を紹介
- ②高岡地区センターだよりについて
講座案内（第1号、第2号）と事業報告（第3号、第4号）を発行

<学習相談>

面談や電話での学習相談で、ほとんどが学習講座に関する内容（12月末で2194件の相談）

<学習交流>

- ①ウイング・ウイング祭について
ウイング・ウイング高岡に入居する公共機関や民間事業者全体で開催。高岡地区センターでは、学習団体の学習成果の発表と交流を通して、生涯学習に対する意識を高めることを目的に学遊祭を開催。来場者数は2日間で7,301名、そのうち高岡地区センター学遊祭への来場者数は857名。
- (i)期間 平成30年10月19日（金）～20日（土）
- (ii)ステージ発表 1階交流スペース（高岡地区生涯学習団体 6団体）
いずみの会、朗読サークル「言の葉」、藤久会、かたかごグループ芸能部「弥紀の会」
かたかごグループうたごえサークル「のぎく」、高岡鳩の会
- (iii)展示発表 7階学習室・エレベーターホール
高岡地区生涯学習団体、自遊塾、富山県〔立山博物館〕、立山黒部ジオパーク、
県民カレッジ
- (iv)ミニ講座（県民教授） 7階エレベーターホール
自遊塾「バルーンアートで人気者」、自遊塾「元気アップ笑いヨガ」
- (v)名作映画上映会 7階学習室A
- ②高岡地区交流会について
高岡地区生涯学習団体協議会各団体の会員相互の学習交流や情報交換を目的とし、株式会社プレステージ・インターナショナル（射水市）、誕生寺（射水市）等で現地研修を実施。

<その他>

○生涯学習機関との連携

広域学習サービス連絡会議（年1回）

高岡及び砺波地区の生涯学習機関による情報交換と支援体制について協議

○生涯学習ボランティア

カレッジメイト会議（年3回）

講座運営および広報活動への協力体制について協議

(2) 運営に関わる現状と課題

I 学習機会の提供について

(事務局) 今年度は主催講座の定員が増えたこともあり、受講者数は昨年度の817名から855名に増加した。講座全体の修了率も向上し、主催講座では80%を超えた。一方、申込者数の増減はほとんどないが、実人数は昨年度の328名から270名に減少している。4講座以上の申込者数は昨年度の19名から40名に増加した。今後は受講者の実人数を増やし、さらに現状の高い修了率を維持することが課題である。

また、すぐれた映像教材をより多くの方に鑑賞してもらえるよう定期的に上映会（わくわくシアター）を実施している。今年度は新たな試みとして特製ポスターを作成し、高岡地区の公民館等に配布した。PRの効果があってか来場者数は少し増えた。今後さらに来場者数を増やすことが課題である。

(議長) 「学習機会の提供」について質問や意見をあれば伺いたい。

(委員) 昨年度に比べ、講座全体の修了率が上昇したのはなぜか。

(事務局) 各講座終了時にアンケートを実施し、受講者のニーズを把握しながら魅力ある講座の企画に努めていることが要因と考えられる。また1講座あたりの回数を減らした講座もあり、これもその一因と考えられる。

(事務局) 講座の企画や内容に魅力があり、受講者の意欲や関心に応えるものになっていることや受講者にとって参加しやすい日程になっていることなど、様々な要素が重なってこのような高い修了率になっていると考えられる。過去3年間の修了率をみると、とても高い状態が続いている。

(議長) 他に質問があれば伺いたい。

(委員) 講座を受講する実人数が減少し、受講者数が増加したことが講座の修了率を上げたのではないか。実人数が減少した原因をもう少し分析する必要があると思う。受講者の年齢構成を見ると60代が減少して70代が増加している。減少した受講者のほとんどが60代だったのではないか。そのことが修了率のデータに結果として反映された可能性もある。実人数が減少したことについてどのように捉えているのか。

(事務局) 実人数の減少については、来年以降もこの傾向が続くようだと深刻な状況になる。実人数が減少したことについては、はっきりとした原因はわからない。60代の減少が目立ったが、60代の方はまだ仕事をされている方や自治会など地域のお世話をされている方もいる。70代になると落ち着いて自分の好きなことに専念したり、生涯学習講座に参加したりする余裕ができるのかもしれない。

(事務局) 共学講座や自遊塾を含め、県民カレッジ全体の講座を見ると昨年度の受講者数は延べ約5890名、そのうち、初めて県民カレッジの講座を受講した人は約900名で、多くの方が受講された。今回は高岡地区センターではなく、他の地区センターで受講されている可能性もある。

(委員) 資料を見ると定員以上の申込がある講座もある。そういう場合は受講する際に何か制限を設けているのか。

(事務局) 高岡地区センターの主催講座については特に制限を設けてはいない。共学講座については受講できる講座数は最大4講座となっている。

(委員) 新規の方にも広く門戸を広げているか。

(事務局) 今年度の主催講座では定員465名に対して518名の方が講座を受講された。「ふるさとの歴史・人・文化(前期)」では定員50名に対して70名の方が受講している。各講座で定員の設定はしているが、会場の収容人数や活動内容を考慮しながら座席を増やしたり、講師と相談したりしながら、新規の方を含めなるべく多くの方に受講していただけるように配慮している。

II 学習情報の提供について

(事務局) 最初に「とやま学遊ネット」について説明する。「とやま学遊ネット」には、各種講座、講師、学習団体などの生涯学習に関する情報を掲載している。広く県民に利用されているシステムであり、H29年度は年間約73万4千件のアクセス件数があった。そのうち、高岡地区センターのホームページへのアクセス件数は約5万5千件であった。受講者募集期間や講座・イベントの実施期間にアクセスが多い傾向にある。

次に「高岡地区センターだより」について説明する。高岡地区センターでは講座案内として「高岡地区センターだより」を発行している。高岡地区および砺波地区の公民館や図書館、生涯学習機関を中心に配布し、受講者の募集を行っている。アンケート結果によれば「高岡地区センターだより」から講座情報を入手している受講者が96%と多く、高齢の受講者にとっては一番利用しやすい重要な入手手段と考えられる。今後はこの「地区センターだより」を現役世代も含め、さらに多くの方の受講に繋がるように提供することが課題である。

(委員) 企業にも講座案内を配布しているか。会社を退職される方々に広報できると新規の受講者増に繋がるのではないか。商工会議所に広報をお願いできないか。

(事務局) 以前、富山地区センターの運営会議で同じ話題が出た。「地区センターだより」ではなく講座内容を掲載した簡易版のチラシ(A4サイズ1枚)を経済同友会を通じて企業へ配布したことがある。

(委員) 会社を退職する方は退職後のことを考えているが、講座などの情報に触れる機会が少ない。そういう方に情報が伝わり、興味を持ってもらえば新規の受講者になる可能性がある。

(委員) 新規の方に来ていただくのは簡単なことではない。商工会の会報に講座情報を掲載したり、会合や他団体の講座でPRしてもよい。また、自治会の回覧板を利用するなど、いろいろなやり方で広報活動をすればよい。

(議長) 講座案内の配布先を図書館、公民館などの公共施設から民間の事業所などに拡大し、さらに広報を強化してはどうか。高岡地区センターは魅力ある講座を多く実施しているので、いろいろな人に知らせることを考えるべきである。講座案内もタイトル以外で詳しい情報を掲載し、興味を持ってもらえるような工夫があるとよい。

(委員) 受講者の中には Facebook などの SNS をされている方がいると思う。そういう方に講座を受講した内容や感想を載せてもらえば、経費をかけず広報ができる。SNS から高岡地区センターのホームページにアクセスできるようにしてもらえば、新たな受講者も増えるし、インターネットの利用率も変わってくると思う。

(委員) 「講座案内」に受講者の声があればよい。また、講座終了後に講座の様子や受講者の感想等を伝えるようなことをしてはどうか。受講の楽しみ方が見えてくると興味のある人は惹きつけられると思う。

(事務局) 「講座案内」には紙面の関係もあり、受講者の感想などは載せてはいないが、今年度からホームページ上で受講者の感想を掲載している。

III 学習相談について

(事務局) 高岡地区センターでは電話や来所による「学習相談」を行っている。相談内容は、学習講座に関するものが多い。今年度は4月が627件と最も多く、12月末までの対応件数は2194件であった。そのうち7割が来所しての相談件数となっている。

(事務局) 現在は「学習相談」と「学習情報提供」を分けて考えているが、元々是一緒なものだった。県民カレッジが始まった当初は、「何を勉強すればよいか」などの学習相談を受けながら、そこで情報提供をしていた。

(委員) 私の年代は地区センターに来所して直接相談する方が安心できる。インターネットなどもあるが、受講者の年齢層を考えると顔を見ながら相談できる体制を大切にしてほしい。

IV 学習交流について

(事務局) 今年度で14回目となったウイング・ウイング祭だが、高岡地区センターでは、学遊祭を開催し、各団体の学習成果の発表と交流の場を提供している。昨年度は展示スペースを工夫し、各種イベントやミニ講座の開催により来場者数を大きく伸ばした。今年度はこれに加え、他機関との連携もあり、さらに来場者数を120名増やすことができた。

今後はさらに来場者数を増やすことで、より多くの方に生涯学習のよさを体感してもらうことが課題である。

(委員) 今年度の展示室はとても賑やかで、嬉しく思った。日程の設定もあるかもしれないが、この感動を続けてほしい。

(議長) 来場者数が増えた原因は他機関と連携したからか。

(事務局) 来場者数を分析すると他機関との連携が一因になっていると考えられる。

(議長) 特製ポスターを作成し、高岡地区の公民館に配布した効果もあったのではないか。

(事務局) 特製ポスターでの広報が多少なりとも効果があったと思われる。この建物の1階は大変賑わっていた。来年度はその賑わいを7階にまで持ってきていたいと考えている。昨年度は高校でスタンプラリーを実施し、1階からすべてのフロアをまわるような仕掛けをした。今年度は高校の行事と重なり、それができなかった。来年度はスタンプラリーを行い、人の流れを1階から7階までつくりたいと考えている。

(議長) 全体を通して他にあるか。

(委員) 現役世代を対象に土曜日に講座を実施した結果、申込者の人数や年代に変化が見られなかったということだが、現役世代が受講したい内容ではなかったことも考えられるのではないか。

(事務局) この件について他の生涯学習機関にも問合せをし、調査してみた。曜日に関係なく現役世代の参加はほとんどないとの回答だった。このことから現役世代を受講者に取り込むのは難しいのではないかと考えている。

(委員) 平日の講座だと確実に現役世代は受講できない。現役世代は土曜日に参加できる可能性は平日よりも高い。土曜日については、今回、現役世代が集まらなかったから実施しないことにするのではなく、講座内容も考えながら実施を継続してほしい。

(委員) 若い人に来てもらいたいのであれば、若い人に向けた講座を土曜日に設定すればよいのではないか。

[5] 閉会のあいさつ [県民カレッジ高岡地区センター 尾崎所長]

長時間にわたり有意義な協議をしていただき感謝する。委員の皆様からいただいた貴重な意見や助言をできる限り反映させ、今後の地区センターの運営をよりよいものにしていきたいと思う。